



厚高インフォ

Vol.270

学校の取り組みは
ホームページでも！



▼新入生歓迎会（4月15日）

新入生23人は、1人ずつ紹介を受け、全校生徒が待つ体育館に入場しました。スライドを使って生徒会や教職員、学校行事、部活動を紹介するなど、創意工夫した心のこもった温かい歓迎会になりました。

ハスカップの実を模した中南米のくす玉「ピニャータ」を作り、生徒会と新入生双方の代表2人が棒で打ち割りました。「ピニャータ」は、悪いものを追い払う縁起ものとされています。新入生には、充実した3年間を過ごしてほしいと願っています。



▼開校記念日（4月20日）

歴史と伝統ある北海道厚真高等学校は、69回目の誕生日を迎えました。開校以来「よき市民、よき社会人を育てる」を継続し、地域の多くの皆さんに愛され、支えていただきありがとうございます。来年度は70周年です。自主学習型の

ウェブサービスの活用や公営塾の設置、探究型キャリア教育への進化など、さまざまな場面で生徒が活躍する姿に期待ください。

▼自転車点検（4月21日）

自転車通学の生徒を対象に、本校の交通安全委員と担当教員で自転車点検を行っています。ハンドルやブレーキなど、項目に従って1台ずつ点検しました。交通事故防止のため、自転車の整備の呼びかけと、安全運転の指導を行っています。

▼生徒総会（4月28日）

全校生徒75人が、体育館で生徒総会を開きました。令和3年度の活動報告と生徒会会計決算報告、令和4年度の活動計画と生徒会会計予算について審議しました。「朝のバスを2台にしてほしい」など、各クラス代表からの質問について生徒会執行部が回答し、拍手で原案通り承認されました。集団での討議の方法や態度について学ぶことができました。

▼来校されている先生

厚真高校には、定期的に多くの先生が来校しています。地域連携協力校の苫小牧東高校から出張授業で東光幸先生（英語）、教育局ALETのホセ・ラウル・クラベリア先生、厚真町ALETのアルビン・クマル先生です。また、スクールカウンセラー2人が、毎月1回程度来校しています。生徒の自己実現を助ける役割を果たし、生徒はさまざまな先生と触れ合うことができます。

大切にします “心の書籍”

よりみち学舎には、大型の本棚があります。よりみち学舎のスタッフ3人が、3列ある棚にそれぞれコーナーを設けました。

学習参考書や古典、小説、資格試験対策のテキストなど書籍のほか、レコードや映画のDVD、ボードゲームなど、多岐にわたって並んでいます。好きなものを自由に選んで閲覧できますが、今のところ、本棚から手に取ってじっくり読んだり触ったりしている生徒の姿はそれほど多くはありません。訪れる厚高生の大半は、タブレットを使ってイラストを描き、スマートフォンで調べ物をしています。時代を肌で感じます。

私の学生時代は、図書館の書架や友だちの家の本棚をあさることで知識を膨らませていました。ITが進化している今の時代は、アナログなものを充実させる優先順位は低いかもしれません。手法はどうであれ、生徒自身の主体性を養うお手伝いがしたいと、私の経験を振り返りながら公営塾と向き合っています。

先日、本棚をふとのぞくと、シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」が読まれていたことが分かりました。「興味を示してくれたこと」が、新鮮に思えました。何か少しでも生徒の心に刺さる場所を作りたいという所信を思い出しました。

本棚には、まだ空きスペースがあります。時を重ねながら、厚高生たちとの距離感を“心の書籍”で埋めていきたいと思います。

教育魅力化支援員 かわしま けい
川嶋 圭



よりみち通信



「よりみち学舎」は、厚真高校と地域が連携しながら放課後を利用して生徒が自ら目標を発見し、挑戦する公営塾です。